

# 道南いさりび鉄道 第2次経営計画の策定に向けた方向性について

道南いさりび鉄道株式会社

## 1 当社の経営計画について

2014年（平成26年）7月、道南地域（五稜郭・木古内間）第三セクター鉄道開業準備協議会において、北海道道南地域（五稜郭・木古内間）並行在来線経営計画（以下、「現経営計画」）が策定されました。

当社は、現経営計画に基づき、JR北海道から経営分離された旧江差線を引き継ぎ、第三セクターが運営する並行在来線として2016年（平成28年）3月26日に開業しました。

## 2 第2次経営計画の必要性について

現経営計画は、開業後10年間（2025年度（令和7年度）まで）の収支予測を行ったものであり、当社としては、2026年度（令和8年度）以降の経営方針を明らかにするため、新たな経営計画を策定する必要があると考えます。

なお、現経営計画は当社設立前に策定されたため、協議会が主体となっていますが、第2次経営計画は、当社が主体となって策定します。

## 3 第2次経営計画の主な内容について

### （1）当社の果たす役割

開業以来、地域の皆様のご支援のもと、通勤、通学、通院、買い物などの日常生活を支えるとともに、道南地域を訪れる観光客の皆様に、地域の魅力を楽しんでいただく役割を果たしてまいりました。

同時に、北海道と本州を結ぶ重要な物流ルートとして、貨物列車の安定的な輸送のための役割を担ってまいりました。

当社としては、こうした役割を引き続き果たしていく所存です。

### （2）収支予測

これまでの経営状況や沿線の人口予測、また、収支改善の取組をふまえ、収支予測を行います。

### （3）計画期間

2026年度（令和8年度）～2030年度（令和12年度）までの5年間の計画とします。

※ 北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）が開業予定であり、当社への影響（当社の列車が五稜郭・函館間に乗り入れていること、JR北海道の施設・設備を共同利用していることなど）について、影響が生じる可能性がありますが生じる可能性があること、貨物調整金等新制度に移行する可能性があることなどから、2031年度以降の収支予測は現時点では困難であるため、これらの動向を見極めながら検討することとします。

## 4 今後の進め方

沿線地域協議会を構成する道や沿線市町としっかり協議しながら、社内において具体的な検討を進め、2024年度（令和6年度）末を目途とした第2次経営計画の策定を目指します。